

*** 60m 鉄塔検証—その 11、中央の 60m 鉄塔の痕跡発見—**

大正 12 年に建設され、昭和 18 年 8 月に調布飛行場を飛び立った陸軍の戦闘機がアンテナ線に引っかかり墜落炎上するという事故があり、昭和 20 年 4 月に陸軍の手によって倒された報時信号受信用の 60m 鉄塔アンテナについて検証を続けている。写真 1 は昭和初期の 60m 鉄塔アンテナ 4 本が写った写真である。①～④が 60m 鉄塔であり、⑤は三角点「三鷹村」上の櫓である。

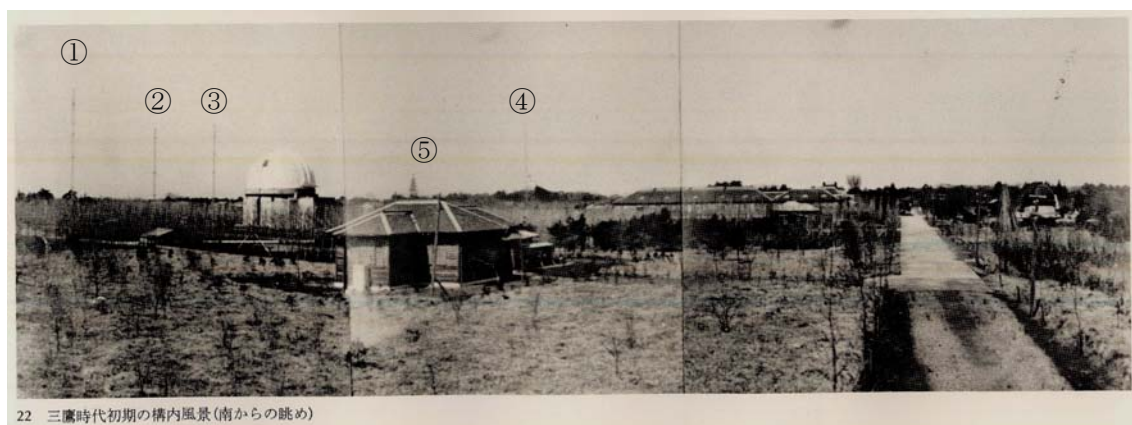


写真 1 三鷹時代初期の南から撮影した構内写真

④の 60m 鉄塔の痕跡は確認されており、図 1 のように鉄塔跡、3 個のステーの基礎の痕跡も確認されている。



図 1(写真) 写真 1 の④の鉄塔の基礎とステーのコンクリート基礎

写真1の③の60m 鉄塔については、ステーの基礎1個の痕跡が確認されている。ステーの基礎1個の痕跡があれば、鉄塔に基礎の場所は推定できる。そこで今回、③の鉄塔のあった場所を探し出す作業を行い、その痕跡を発見したので報告する。

図1の④鉄塔位置から南の桜並木北側にあるステー基礎中央までの距離を測定した結果、39.3mと測定された(図1の赤い矢印)。そして③の鉄塔のステーの基礎で発見されている1個が写真2である。



写真2 見つかった③の鉄塔のステーの基礎

写真2のステーの基礎にはステーを張ってあったチャンネル材2本が残っている。このステーの基礎の中心からチャンネル材が向いている方向の39.3m先が③の鉄塔が立っていた場所である。そこでその場所を特定するために、先ずはその辺りに生えている竹を切り取って、チャンネル材の向いている方向に向け、次々と継ぎ足していった。ところがこの場所は密生した太い篠竹の竹やぶで、直線で39.3mを延長していくには行く手を阻む太い篠竹を何本も切り払わなければならなかった。何とか40mほど見通せるように邪魔になる篠竹を切り払い、アーカイブ室新聞198号で紹介した、野辺山太陽電波観測所開設当時使われたJIS1級ステンレス製50m巻尺で39.3m地点の見当をつけた。しかし、太い篠竹を切り払った先には、太い大木がありその先にもかなり太い木があった。その辺りは、三鷹市の森を守るグループが「東京で一番大きなこぶし」だという木が立っている辺りで施設課の手で切り開かれている場所であった。まさしく60m鉄塔があった場所と思われる方向にある大木がこのこぶしであった。それらの先の39.3m地点と思われる直径3mほどの範囲を細い竹で散らばっている枯葉、枯れ枝、笹竹、草などを払いながら鉄塔の痕跡を捜したが見つからなかった。1日目は疲労困憊したので、その時点であきらめて退散した。

翌日、より確かな地点を求めるべく、「レーザーポインター」を用意して、より方向性

を確実にする事を考えた。そして他に、地中に埋まったコンクリートの塊を探るために鉄棒を探し、工場を訪ねた。工場で先のとがった鉄棒は調達できなかったが、大きなバールを2本借りた。そして、つるはし、剣先スコップ、鍬を用意して現場に戻った。

まず、レーザーポインターで狙いをつけると、まだ切り払わなければならない太い篠竹が10本余りあった。それらを切り払い、「東京で一番大きなこぶし」辺りに出ると、なんと、このこぶしの左をかすめ、その先の太い木の右をかすめ、その先のやや太い木の左すぐのところを求める地点であった。

とにかく、候補地点は見当がついた。その辺りを長山君がはしで掘り始め、筆者はバールを大地に突き刺して行った。と、何回もバールを振り下ろさないうちに「ガチン」と硬いものにぶち当たった。長山君に「あったぞ」と声をかけると、長山君は「そんなに簡単に見つかっては！」と応じた。2人ではやる気持ちでその場所をつるはし、鍬、スコップを使って掘るのだが、3本目の木のすぐ傍なので、その木の根っこやら、竹の根っこがびっしりで作業は遅々として進まない。それでも根っこをのこぎりで切りながら20cmほど掘り進んでいくと、コンクリートの平面が出てきた（写真3）。



写真3 出てきた60m鉄塔基礎（青い矢印）

そのコンクリートがかなり大きなものであることを確認し、3本目の木の反対側の比較的浅い所にもコンクリートの塊があることを確認した。その時点で、汗まみれになりのがが渴き、疲労困憊、それ以上の作業は今回はあきらめた。それでもステアの基礎から39.3m地点に大きなコンクリートの塊を発見した。恐らくこのコンクリートが③の鉄塔の基礎であろう。続きの作業を楽しみにしよう。

さっそく、昼休み、生協食堂で出会った木下名誉教授にこの話をしたところ、食後、ぜひ見たいというので案内した。